

## 【実践報告】

# 教育実習Ⅰ（小学校）の報告

広島文教大学教育学部教育学科

准教授 三田 幸司

## 1 はじめに

本科目は、小学校における本実習（教育実習Ⅱ・Ⅲ）に臨むにあたり、実習生としての確かな心構えと教育実践力を養うことを目標とする。まず全体会において、前年度履修した「学校教育の体験活動（小）」における観察・参加実習での体験や、各教科教育法での学びをふりかえり、教材研究や学習指導案作成の仕方などをより深く学習する中で、事前に取り組むべきことを明確にする。小グループに分かれてからは、教材研究・題材開発、模擬授業に取り組む。また、空きコマなどを活用して、模擬授業に関する担当教員との打ち合わせを行い、指導を受ける。最後に、全体研究授業（代表学生による模擬授業）を実施するとともに全体会を行い、後期の教育実習Ⅱ・Ⅲへとつないでいく。

## 2 実施のスケジュール

項目	時期	主な内容
事前ガイダンス、全体会Ⅰ・Ⅱ	1月～4月	<ul style="list-style-type: none"><li>・2年次後期の1月下旬（もしくは2月初旬）に事前ガイダンスを行い、教育実習Ⅰの趣旨・スケジュールや春期休業中の課題などを確認し、グループメンバーおよびグループ毎の目標を決定する。</li><li>・担当教員からのアドバイス（教材研究のポイント、教科書・指導書などの資料の活用法、指導案の提出・添削の方法など）、春期休業中の課題の提出、第1クール担当教員と模擬授業の打ち合わせなどを行う。</li><li>・担当教員による示範授業と協議会を体験するとともに、今後の取組についての打ち合わせをグループ毎に行う。</li><li>・ルーブリック（授業評価票）を配付し、評価規準（基準）、評価方法について担当教員から説明する。</li></ul>
グループ別模擬授業	4月～7月	<ul style="list-style-type: none"><li>・教材研究や題材開発に取り組み、学習指導案を作成する。担当教員と模擬授業に関する事前打ち合わせを行う。模擬授業をするにあたり、事前に模擬授業の練習を自主的に行う。</li><li>・グループ毎に模擬授業に取り組む。</li></ul>
全体研究授業Ⅰ・Ⅱ、全体会Ⅲ、事後学修	7月～9月	<ul style="list-style-type: none"><li>・代表者による模擬授業（模擬授業45分・研究協議会40分、代表者2人、2会場、1回）を行う。</li><li>・担当教員による激励、教育実習Ⅰのふりかえり、課題（学習指導案のデータ・プリント、自己評価シートなど）の提出をする。</li><li>・夏期休業中、グループ別で模擬授業に自主的に取り組み、後期の教育実習Ⅱ・Ⅲに備える。</li></ul>

### 3 活動の概要

(1) グループおよび担当授業科目 (受講者総数77人)

グループ (人数)	模擬 ①	模擬 ②	模擬 ③	模擬 ④	模擬 ⑤	模擬 ⑥	模擬 ⑦	模擬 ⑧	模擬 ⑨	模擬 ⑩
A (10人)		国語			音楽			理科		体育
B (10人)		英語			国語			音楽		理科
C (9人)		理科			体育			国語		音楽
D (9人)		体育			理科			英語		国語
E (10人)		社会			英語			算数		図工
F (10人)		図工			社会			道徳		算数
G (10人)		算数			道徳			社会		英語
H (9人)		道徳			算数			図工		社会

今年度は、担当教員数の変更により音楽と英語を加え、7教科から9教科に増加した。これに伴い、昨年度のA～Gグループに1グループ加えたA～Hまでの8グループとしたことで、各グループの人数が10名以内となった。学生1名あたり3回の模擬授業を行うが、各グループで毎週3名ずつ行っていけば10回で完了することから、模擬授業の後半に全体会Ⅲを設け、それまでのふり返りを行ったり全体研究授業を行う代表者を決めたりするように計画していた。

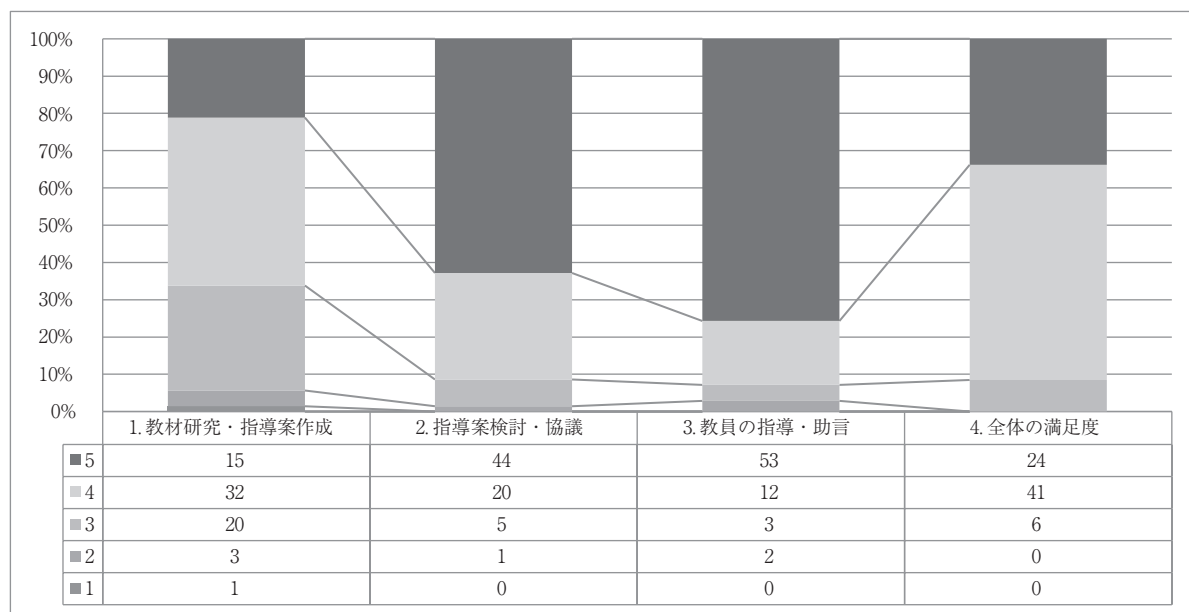
当初の予定	変更後の流れ
(1) 4/17: 全体会Ⅰ	/
(2) 4/22: 全体会Ⅱ	
(3) 4/29: 第1クール 模擬授業Ⅰ	
(4) 5/ 6:     〃     模擬授業Ⅱ	
(5) 5/13: 第1クール 模擬授業Ⅲ	} 非対面
(6) 5/20: 第2クール 模擬授業Ⅰ	
(7) 5/27:     〃     模擬授業Ⅱ	
(8) 6/ 3:     〃     模擬授業Ⅲ	
(9) 6/10: 第3クール 模擬授業Ⅰ	
(10) 6/17: 全体会Ⅲ	
(11) 6/24: 第3クール 模擬授業Ⅱ	} 対面
(12) 7/ 1: 第4クール 模擬授業Ⅰ	
(13) 7/ 8:     〃     模擬授業Ⅱ	
(14) 7/15: 全体研究授業	
(15) 7/29: 全体会Ⅳ	
	(5) 5/13: 臨時全体会
	(6) 5/20: 第1クール 指導案検討Ⅰ
	(7) 5/27: 第2クール 指導案検討Ⅰ
	(8) 6/ 3:     〃     指導案検討Ⅱ
	(9) 6/10:     〃     指導案検討Ⅲ
	(10) 6/17: 全体会Ⅲ
	(11) 6/24: 第3クール 指導案検討Ⅰ
	(12) 7/ 1: 第3クール 模擬授業Ⅰ
	(7/ 8: 豪雨のため休講)
	(13) 7/15: 第4クール 模擬授業Ⅰ
	(14) 7/25: 第4クール 模擬授業Ⅱ
	(15) 7/29: 全体会Ⅳ, 模擬授業

当初は予定どおりに進行できていたが、模擬授業を2回終えた時点で新型コロナウイルス感染拡大の状況を受け、5月下旬からは模擬授業の代替としてMicrosoft Teamsを用いたオンラインによるグループ別の学習指導案検討に振り替えた。約1か月後の6月下旬には対面形式を再開し、7月初めからは模擬授業を再開したが、全ての学生に模擬授業の機会を保障するために、全体研究授業等は中止

して模擬授業を続けた。なお、毎回のコメントシートや最終講で配付する自己評価票などの提出物については、昨年度と同様にGlexaを活用した。

(2) 教育実習 I：全体振り返りシート（自己評価票）の集計結果（回答者71人，回答率92.2%）

最終講において、自己評価票（Glexa）による調査を行った。「1. 自分自身の教材研究，学習指導案作成の取組」，「2. グループでの指導案検討・協議」，「3. 担当教員の指導・助言」，「4. 授業全体の満足度」の4観点についての満足度を5段階（5が最高，1が最低）で学生に評価させた。結果はグラフの通りである。



【令和3年度・教育実習 I 自己評価票 集計結果（A～Hグループ）】

## 4 成果と課題

昨年度は，新型コロナウイルス感染拡大を受けて教員による示範授業や対面による模擬授業の実施を見合わせた。しかし今年度は，示範授業（体育）を体育館でディスタンスをとりながら実施することができ，また，模擬授業も回数は少なかったものの行うことができた。

今年度も，担当教員による学生の評価と学生による自己評価にループリックを活用した。そして，担当教員による協議の上，最終的に評定を決定した。また，学生による自己評価結果（【令和3年度・教育実習 I 自己評価票 集計結果（A～Hグループ）】参照）を昨年度の結果と比較したところ，「2. グループでの指導案検討・協議」に対する回答については，肯定的な回答（選択肢4 + 選択肢5）の割合はほぼ変化がないものの，選択肢5の割合が20%程度上昇していた。

課題としては，新型コロナウイルス感染拡大のために，学生の代表者が行う全体研究授業が実施できなかったことが挙げられる。一つの授業を多くの学生が参観して協議を深めることは重要な学びとなることから，別形式で実施する方向で検討したい。また，昨年度まで課題として指摘されていた，全体研究授業の代表者と当該教科の指導教員に対する負担が大きかったことについても，合わせて改善していきたいと考える。

### 参考・引用文献

- ・佐伯育郎「教育実習 I（小学校）の報告」（『広島文教大学 教職センター年報 2021年 第9号』広島文教大学教職センター，令和3年）